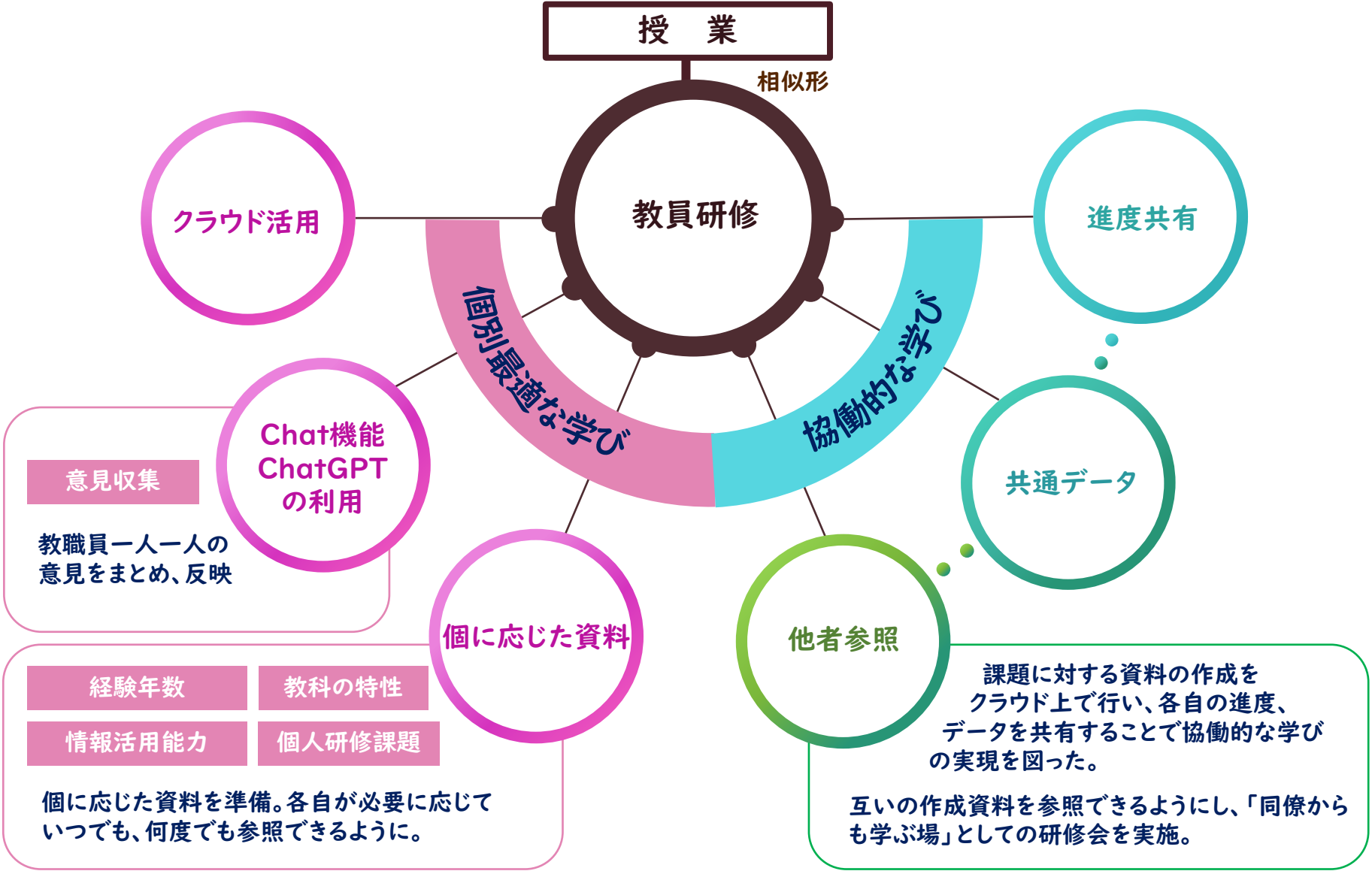


リーディングDXスクール事業【実践事例】

富山市立芝園中学校（富山県）【指定校】

【取組内容】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を組み合わせた教員研修



リーディングDXスクール事業【実践事例】

富山市立芝園中学校（富山県）【指定校】

【取組内容】 指導案のデジタル化

紙面で指導案を配付する場合とは異なり、指導者は直前まで指導案の内容を変更することができる。

コメント機能を利用し、一つの指導案のデータ内に、参観者全員の意見を集約することができる。

B	C
には、青色を塗る。	
〇四人班で、ホワイトボードに根拠を挙げるための話し合いを行う。 ・ホワイトボードを左右二分割し、記入する。 ・黒板に提示し、全体で共有する。	9.02 11月21日 「天上界で悩み事が無いことは良いことなのか」ということで話し合っていた。 「飛ぶ車は入るのか」と話していた。 どの班も資料から読み取ったことを要約していた。
〇自分の立場を明確にし、根拠を挙げて話し合う。 ・心算で自分の立場を明確にする。	
〇フォームで、自分の意見を書いて提出する。	9.11 11月21日 ホワイトボードにまとめるという作業はクロムブックより手軽に行えて、かつ、班員同士の関わりが生まれてよかった。

コメント機能の利用

直前まで
変更可能画像による
資料共有

指導案

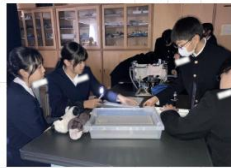
研修の
質の向上事前相談
アドバイス新しい
参観マナー

参観者が授業中にコメントを入力することに対し賛否両論があった。新しい参観マナーが必要。

指導案のデータ内に、参観者全員の意見が集約されているため、短時間で質の高い事後研修会を行うことができる。

指導案の作成中からデータを共有することができるため、事前に相談したり、アドバイスを受けたりしやすい。

紙とは異なり、範囲制限が無い
ため画像や動画を挿入することが
できる。

の留意点	見どころ
像の規則性を見付けよう	
1. 像の大きさ、像の向きはどのようになるだろう～	
凸レンズからの距離を自由に変化させ、物体と凸レンズとの距離を自由に設定させ、できる像の規則性を見付けさせる。	
凸レンズからの距離を一定にし、物体の大きさを自由に変化させ、できる像の規則性を見付けさせる。	
凸レンズと反対側から観察するときの向きで判る。大きさになる位置を案ずる。	
ながら、凸レンズしたとき、像はどの向きで、凸レンズの反対側から観察するときの向きで判る。	
ミラーシミュレーションで、自分の意見を書いて提出する。	凸レンズでできる像の作図と実験にできる像を結びつけてイメージすることができる。 実験には誤差がつくものだが、シミュレーション結果と比較しながら実験を進めることで、より正確な実験結果を得ることができ、次時の授業に活かすことができる。